

神奈川県立鶴見総合高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	8年度 鶴見総合高等学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和8年5月25日(月)15時30分～16時50分
開催場所	鶴見総合高等学校 会議室
出席者	学校運営協議会委員8名(欠席1名)
会議資料	<p>(1) 次第</p> <p>(2) 令和8年度 神奈川県立鶴見総合高等学校 学校運営協議会委員</p> <p>(3) 神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則</p> <p>(4) 学校運営協議会運営計画書</p> <p>(5) 令和7年度 学校評価報告書(実施結果)</p> <p>(6) 令和8年度 学校評価報告書(目標設定)</p> <p>(7) 令和8年度 年間行事予定</p> <p>(8) 令和7年度 進路結果速報及び近年の傾向 等</p> <p>(9) 体育祭のお知らせ</p> <p>(10) 神奈川県立学校のコミュニティ・スクール</p> <p>(11) 令和7年度 学校要覧</p>
議事録	<p>(1) 開会および挨拶 司会進行:丸谷副校長</p> <p>(2) 人事および体制移行 ・委員委嘱:地方教育行政の組織および運営に関する法律等に基づき、出席委員へ委嘱状を交付した。 (任期:令和8年4月1日から令和9年3月31日) ・役員選任:委員の互選(事務局推薦)により、坪屋美代子委員が今年度会長(兼議長)に就任。 ・部会の設置:昨年同様、委員全員が「学校評議会」と「部会」を兼ねることとし、具体的な活動は第2回以降に推進する。 ・自己紹介:人事異動に伴い、新任の校長・副校長・教頭をはじめとする事務局および各委員から自己紹介と各自の活動(地域連携、職業教育、日本語指導)への思いが語られた。</p> <p>(3) 協議事項:令和8年度 本校の基本方針および各グループの目標設定 坪屋会長の議事進行のもと、各グループにおける「学校評価報告書(目標設定)」に基づき説明と質疑応答が行われた。</p> <p>①学務グループ(教育課程・学習指導) 目標:総合学科の特色を生かした主体的な科目選択の推進。 課題と対策: <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望する選択科目の組み合わせや時間割配置の難しさの解消に向けた施策。 ・時間割編成が特定の担当者の力量に依存している現状を打破するため、チーム内での技術共有・引継ぎを行いことで「持続可能な業務体制」を目指す。 ・抽選になりやすい専門性の高い科目(陶芸、ファッション造形、フードデザイン等)において、外部企業や実務経験者と連携・コーディネートし、授業枠を確保しつつ生徒の希望にこたえる工夫を検討。 </p> <p>②総務管理グループ(地域協働・学校管理・安全) 目標:地域との連携推進(清掃活動やイベントへの部活の参加など学校発信の交流企画)、PTA活動の精選・活性化。 働き方改革の推進(定時退勤日の設定と意識醸成)、ICT活用(電子黒板導入等)による授業改善とデジタル化。 防災・防犯教育の実践(外部講師による研修など危機対応能力向上)。 委員からの意見・質疑: <ul style="list-style-type: none"> ・木村委員(PTA):校長・教頭といった管理職や担当者が毎年大きく変わるため、前年度からの引継ぎがスムーズに行われず(ゼロからのスタート感)が見受けられる。働き方改革の一環としても、手書きではなくPC等での業務記録・タイムスケジュールを電子化して保存し、次年度に引き継げるようにしてほしい。 ・古澤教諭:引継ぎがスムーズに行われずご迷惑をかけた反省を踏まえ、現在は毎月ごとの業務内容を電子データでメモ化する対応をはじめている。 ・委員(保育園関係):生徒の保育ボランティアは地域や保護者からも非常に好評で、今年度も継続してほしい。また、非常に距離が近いため、有志による高校・保育園合同の避難訓練や防災学習の機会の検討をお願いできないか。 ・ICTの効果について(坪屋会長からの質問):丸谷副校長・栃本総括より、iPadの活用でペーパーレス化が進み印刷や事務作業が容易になったこと、またGoogleドキュメントでの課題配布・回収・チェックにより、5～10分単位での時間短縮・効率化が実現できている旨が語られた。 </p> <p>③キャリア支援グループ(進路・外国人生徒支援) 目標:「生徒個々の希望進路の実現」を大きな目標とし、月曜5、6限の「未来探索」を軸に指導。 今年度はこれまでの「外部を招き入れる連携」から積極的に「外部に出ていく連携」を企画した。発表機会を増やし、(1年次の職業人インタビュー後の発表など)とノウハウの指導を行う。 外国につながる生徒に対し、「支援」だけでなく「共生(多文化共生)」に力を入れる。学校全体を巻き込める形での活動推進、日本語指導、キャリア活動の円滑化をはかる。 委員からの意見・質疑: <ul style="list-style-type: none"> ・木村委員(PTA):共生の観点から親世代の巻き込みも重要。今年度、日本語が話せない保護者向けに通訳(コーディネータ)を介してPTAの説明会を行ったところ、実際に外国籍の2名の保護者がPTA総会に参加したという成果があった。卒業式や入学式でも英語で挨拶するなど、日本語以外でのアプローチも継続・連携をしたい。 ・幸坂総括:保護者向けのアプローチの効果を実感している。今年度もハロウィン、クリスマス、さよならパーティー等のイベントを企画しており、PTAの皆様にも気軽に参加・見学していただけるよう連携を深めたい。 </p>

④生活支援グループ(生徒指導・教育相談)

目標:組織的・体制的な生徒指導、教育相談体制の整備。

課題と対策:

- 教職員の移動が多いため、校内ルールの指導基準をすりあわせて、統一的な指導(指導のばらつきをなくす)を徹底する。
- ルール遵守(頭髪等)、集会時等の私語の禁止、校内のごみの散乱をなくす等、これまでの指導の積み重ねによる成果が出ている。
- 一方で、近隣からの自転車マナー等に関する苦情や電話件数は依然と多く、大きな課題となっている。
- 創立より20年が経過し、校内外のルールが成熟する中、時代の流れ(多様性の受容など)に合わせたルールの見直し(転換期)について議論を始めている。

委員からの意見・質疑:

- 木村委員(PTA):イベント(七夕等飾り付け)の際の掃除でも、以前よりあきらかにゴミは減っていると感じている。また、生徒が迅速に静まり話を聞く姿勢となることは成果の一つではないかと感じている。
- 野口委員(潮田中学校長):中学校(横浜市)側でも、厳しすぎる校則(制服やジャージの着用ルール、熱中症対策との兼ね合いなど)を、生徒会や委員会主導で課題感をもたせて見直す動きを進めている。高校側での指導の根拠、ルール見直しの検討状況について伺いたい。
- 栃本総括:教員の入替わりが多い中で急激な変更は難しいが、創立より20年が経過し実態に合わなくなっているルールや、教員側が合理的な理由を説明しづらいルールについては、まずは教職員間で目線を合わせ見直しの議論をすすめているところ。

⑤活動支援グループ(部活動・学校行事・生徒会)

目標:部活動:加入率は上昇傾向。上級生になってからの退部を防ぐために継続した支援を行う。

和太鼓部などの活躍をさらに校外に発信・啓発する。

学校行事:体育祭の応援団衣装ルールなど、課題が生じた部分について固定化せず柔軟に見直しを行う。

生徒会活動:生徒の主体的な活動の支援。週1回の話し合いのなかで生徒側から「ゴミ箱が少ない」といった課題が挙げられており、コロナ禍での撤去等を説明した上で、どうすれば学校がよくなるか生徒側に提案書のまとめを促している。

委員からの意見・質疑:

- 木村委員(PTA):PTA総会でも「会費の使途を生徒達のために見える化してほしい」という要望があった。生徒がゴミ箱設置を求めているのであれば、校内の美化にも繋がるため、PTA会費からの購入支援も検討できる。生徒会とPTA本部がより密に連携・相談できる関係を今年度構築したい。
- 上野総括:ゴミ箱を設置した後の管理・美化体制を含め、生徒自身が調整・解決できるよう支援していきたい。連携の提案には、感謝もうしあげる。
- 委員(小学校関係):教職員の働き方改革と部活動の持続可能性(日数のルール等)の兼ね合いはどうなっているのか。
- 上野総括:神奈川県(週休・活動日のガイドライン)は遵守している。また、活動日の多い部活(和太鼓等)は顧問を複数名(例:5~6名)配置し、1人当たりの負担を軽減するシニア体制をとっている。また、部活指導が働き甲斐(ストレス解消)になっている教員もいるため、健康管理とのバランスを取りつつ、顧問移動時の持続可能性も考えていく必要がある。

⑥研究広報グループ(授業研究・広報)

目標:学校全体での授業研究(指導案の検討等)の推進。6月の全公立展等のイベントにおける展示方法の見直しや、効果的な広報活動の推進。

(4) 審議結果

・令和8年度 学校評価の目標設定について:委員全員の拍手をもって承認(可決)された。

(本協議会第3条に基づく承認議決)

(5) 事務局連絡およびその他

・情報の公開について:要綱第10条に基づき、本協議会の結果(議事録内容、協議事項を中心に必要最小限の意見を記載したもの)を学校ホームページで公開する。

・次回予定:10月19日(月)を目途に調整。

それまでの間も、運営上の意見があれば随時事務局で受け付ける。

(6) 閉会の挨拶(野澤校長)

・本日いただいた多くの貴重なご意見(引き続きの電子化、ボランティア連携、多文化共生の保護者巻き込み、ルールの合理性、生徒会との連携など)真摯に受け止め、生徒がより良い学校生活を送れるよう、また、地域・PTAとがっちり連携が取れるよう反映していきたい。

10月の次回協議会では、これらの意見に対する反省点や達成度についても報告し、ご意見を頂戴したい。

以上